Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

3月号—No.322
2022.2.25
（毎月1回25日発行）

News Letter to Arts Crew

【ヒヤシンス】ヒヤシンスの花のような紫味のある水色。

ヒヤシンスの語源はギリシャ神話の美少年ヒュアキントス。アポロンに愛され、二人で円盤遊びに興じていたときに誤って死んだ彼を悼んで花に生まれ変わらせたとか。学校で水栽培するブルーの花のイメージがあるが、園芸種として盛んに品種改良され、紫、白、ピンク、黄などさまざまなカラーが楽しめる。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
令和3年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」表彰式
「公共ホール邦楽活性化事業」令和4・5年度登録演奏家ガイダンス報告
財団からのお知らせ……4
ステージラボ大分セッション開催のお知らせ／「第22回地域伝統芸能まつり」中止のお知らせ／「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法／「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」公開プレゼンテーション開催／「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」2023・2024年度登録アーティスト募集／令和2・3年度「市町村立美術館活性化事業」報告
今月の情報……7
地域通信／アーツセンター情報
今月のレポート……12
滋賀県大津市　滋賀県立美術館
「人間の才能 生みだすことと生きること」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183　Fax. 03-5573-4060
URL: https://www.jafra.or.jp/

令和3年度
地域創造大賞（総務大臣賞）表彰式

「公共ホール邦楽活性化事業」令和4・5年度登録演奏家ガイダンス報告

●令和3年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」表彰式

左：田畑総務副大臣による受賞施設への表彰状・楯の授与／右：田畑総務副大臣と受賞施設関係者、審査委員との記念撮影

令和3年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」の表彰式が1月21日、グランドアーク半蔵門（東京都千代田区）で行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに129施設が表彰されました。

18回目となる今年度は全国から4施設の受賞が決定し、田畑裕明総務副大臣のご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である地域創造の山本信一郎理事長の挨拶に続き、受賞施設の多彩な取り組みが映像で紹介されました。田畑総務副大臣から表彰状・楯の授与に続き、「（受賞施設の）地域に密着した文化・芸術活動は、活力ある地方の創出に繋がるものであり、今後とも、全国のモデルとして、地域の暮らしをより心豊かなものにする文化・芸術の振興に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます」とエールが送られました。

受賞施設を代表し、“伝統文化”の普及・振興に貢献した滋賀県立文化産業交流会館の竹村憲男館長より、「当館では、地域や施設の特色を活かして、2011年から伝統文化の普及、振興を自主事業の柱に据えて展開し、今年度、10周年を迎えております。コロナ禍で閉塞感が続くなか、改めて芸術・文化は地域社会に豊かさをもたらす不可欠なものであるということを実感いたしております。私ども受賞施設一同は、今回の地域創造大賞受賞の栄誉を誇りとして、この賞の趣旨に応えるべく、今後とも芸術・文化による地域振興やまちづくりをさらに推進してまいる所存でございます」という決意を込めた謝辞をいただきました。

地域創造大賞審査委員会の田村孝子委員長からは、受賞4施設への講評をいただくとともに、「（今回の受賞は）設置者である自治体と、施設の運営に携わる皆様が、いつ終わるかわからないコロナ禍にもかかわらず、それぞれの施設の役割をきちんと捉え、ぶれずに運営していらっしゃる結果だと思います。最後に皆様へお願いがあります。大切だと言われ、取り組みは盛んに行われていますが、日本で少し遅れているものがあります。それは、子どもたちへの良質な事業です。ぜひ皆様のお知恵と情熱で、それぞれの地域の子どもたちが宝となるよう努めていただいて、施設の役割を果たしていただけるよう願っております」と今後の期待が寄せられました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、日頃からそれらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げるとともに、今後のさらなるご活躍を期待しています。

●受賞施設
- 調布市せんがわ劇場［東京都調布市］
- 茅ヶ崎市美術館［神奈川県茅ヶ崎市］
- 東海市芸術劇場［愛知県東海市］
- 滋賀県立文化産業交流会館［滋賀県］

●地域創造大賞審査委員会

◎委員長
- 田村孝子［文化ジャーナリスト、前公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長］

◎委員長代理
- 吉本光宏［株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事（社会研究部 芸術文化プロジェクト室長兼務）］

◎委員
- 熊倉純子［東京芸術大学大学院国際芸術創造研究科長 教授］
- 小林真理［東京大学大学院人文社会系研究科 教授］
- 坪池栄子［株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー］
- 仲道郁代［ピアニスト］
- 柳沢秀行［公益財団法人大原美術館 学芸統括］
- 山本信一郎［一般財団法人地域創造 理事長］

●地域創造大賞に関する問い合わせ
総務部　三田
Tel. 03-5573-4184

●「公共ホール邦楽活性化事業」令和4・5年度登録演奏家ガイダンス報告

地域創造では、令和4年度から「公共ホール邦楽活性化事業(以下、邦楽事業)」の登録演奏家制度をスタートします。初めての登録演奏家に決定した川田健太さん(箏、三絃)、藤重奈那子さん(箏、地歌三絃、十七絃)、棚原健太さん(歌三線)を対象にした研修(ガイダンス)が、1月25日に行われました。これは、事業に対する認識を共有し、アウトリーチの手法、地域での取り組み事例などを学ぶもので、今回はその模様を紹介します。

◎おんかつのアウトリーチを模擬体験

ガイダンスでは事業説明に続き、児玉真プロデューサーによるアウトリーチプログラムのつくり方についての講義が行われました。それを踏まえ、おんかつ登録アーティストを皮切りに長年にわたって地域で多彩なアウトリーチを企画・実践してきたピアニストの田村緑さんによる小学5年生向けプログラムの模擬体験講座が行われました。

ラヴェルの『水の戯れ』の演奏では、子どもたちのエントリーポイントとして「リズム」に着目。「ゆったり流れる」など音のリズムとイメージを結びつけて曲を分解しながら演奏。田村さんは、「当初はこういう工夫をしていたが、イメージと無理に結びつける必要はないのではないか。音楽を音楽として楽しんでもらいたいと、薄暗い部屋で寝転がり、目を閉じて、個になって聴いてもらうプログラムを考えた」と試行錯誤についても説明。実際に体験した参加者は、「生まれて初めて生のピアノ演奏を寝転がって聴いた。音にアクセントのあるところは滝壺に落ちたような感じがした」「音が上から降ってきた」など新鮮な感覚を楽しんでいました。

また、「音楽を静寂の中で聴いてほしくて、『何も音がしなくなったら始めるよ』と伝えて待った。こうすると五感が研ぎ澄まされ、さまざまに違った感想が生まれる」と、聴き手の環境づくりの大切さについても言及。定番となっている「ピアノのひ・み・つ」(分解模型や楽器の下に潜るなどの体感により見えないもの・ことを具体化して伝える楽器紹介)、聴き手に戻ってもらうための本格的な楽曲の演奏、「ハンドベルと奏でるパッヘルベルのカノン」(田村緑編曲)の合奏体験など、工夫を凝らしたアウトリーチに登録演奏家もコーディネーターも刺激を受けていました。

◎モデル事業の事例を学ぶ

地域創造では、邦楽事業の本格実施に向けてモデル事業などを実施してきました(報告書は財団ホームページで公開)。今回はそうした事例を元に、コーディネーターの伊藤由貴子さん(神奈川県立音楽堂館長)が、コロナ禍での実施の苦労を交えながら邦楽アウトリーチについて紹介。「アクティビティでは、洋楽との比較で説明するのではなく、和楽器の本質を伝えようと、『ロツレチリ』のような音名や伝統的な唱歌を使った」「多様な曲にふれてもらいたいし、邦楽はカッコイイと伝えようと現代曲を選択」「座敷、美術館などアウトリーチで演奏する空間のことを考えてプログラムを組み立てた」「アーティスト写真も工夫が必要」など、制作的なアドバイスを含めながら講義しました。

※

邦楽事業の第1期登録演奏家となった3名は、「慣れ親しみすぎて疑問に感じなかったことをいろいろ振り返ることができた。邦楽は聴き手が受け取りやすい工夫や、巻き込む力が足りないと感じる。こうしたことを演奏家同士で学び合うことが必要だと思った」(藤重)、「邦楽事業についてのビジョンが見えた気がした。演奏家としてキャッチボールのないまま進めていた。改めて自分が普段からやっていることをゼロベースの人に伝えるにはどうすればいいかを考える必要があると思った」(川田)、「生徒たちの気持ちが整うまで待つという大切さを知った。古典・伝統芸能は敷居が高いイメージがあるが、伝え方に工夫を加えることで楽しみ方が発見できる。そこがやりどころだと思った」(棚原)と振り返るなど、収穫の多い時間となりました。

上:田村緑さんの演奏を寝転がって聴く川田健太さん(手前)と藤重奈那子さん
中:「ハンドベルと奏でるパッヘルベルのカノン」(田村緑編曲)合奏体験
下:伊藤由貴子さん(神奈川県立音楽堂館長)が邦楽アウトリーチを映像を交えて登録演奏家に解説

●「公共ホール邦楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　永田
Tel. 03-5573-4064

財団からのお知らせ

●ステージラボ大分セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得するため、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和4年度の前期セッションは、iichiko総合文化センターにて3コースで開催します。

詳細や参加者募集は、次号の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

●ステージラボ大分セッション概要

[日程]2022年7月5日(火)～8日(金)
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ5日～7日
[会場]iichiko総合文化センター
(大分県大分市高砂町2-33)

◎開講コース(予定)

【ホール入門コース】
•対象となる職員の目安
公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【自主事業コース】
•対象となる職員の目安
公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

【公立ホール・劇場マネージャーコース】
•対象となる職員の目安
公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方。

※新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。
※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更となる場合がございます。

●「第22回地域伝統芸能まつり」中止のお知らせ

2月20日(日)に開催を予定しておりました「第22回地域伝統芸能まつり」を中止いたしました。新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、出演団体等とも協議をした結果、出演者および観客の皆様の健康と安全を第一に考え、中止の判断に至りました。

この日のために準備を進めてこられた関係者の皆様、また本イベントを楽しみにしていただいた皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしましたが、ご理解いただくとともに、今後とも「地域伝統芸能まつり」をよろしくお願いいたします。

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

1. 求人情報登録フォーム、研修会／シンポジウム開催情報登録フォームへアクセス。
2. 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
3. フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
4. 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元に届きます。
5. 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、入力フォームの末尾にあるNo.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、再度修正情報をご登録ください。セキュリティの都合上、すべての情報を再入力する必要があります。ご了承ください。

●「ステージラボ」に関する問い合わせ
芸術環境部　吉川・藤原・梅村
Tel. 03-5573-4068

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部　藁科
Tel. 03-5573-4056

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報」に関する問い合わせ
芸術環境部　人材育成担当
jinzai@jafra.or.jp

●「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」公開プレゼンテーション開催

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の2020-2022年度登録アーティストによる公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、令和4年度におんかつ導入プログラムを実施する団体を対象に行うものですが、今後、おんかつ事業の実施を検討している公共ホール担当者や当事業に関心のある方にも公開して行います。

新型コロナウイルス感染症の対策を講じて開催いたします。内容に変更がある場合がございますのであらかじめご了承ください。

おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程]2022年4月19日(火) 15:00開演(予定)
[会場]トッパンホール
(東京都文京区水道1-3-3)
[内容]各組20分程度のプレゼンテーション
[出演]2020-2022年度登録アーティスト
齊藤一也(ピアノ)、石上真由子(ヴァイオリン)、梅津碧(ソプラノ)、竹多倫子(ソプラノ)、新野将之(打楽器)

◎観覧を希望される方は、当財団ホームページの参加申込フォーム(https://www.jafra.or.jp/event-request/2022/)よりお申し込みください。
募集期間:2022年2月24日(木)～4月12日(火)
※定員に達し次第申し込み終了

●「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」2023・2024年度登録アーティスト募集

この事業は市町村等の公共ホールに、オーディションで選ばれた演奏家とコンサートの企画制作経験が豊富なコーディネーターを派遣し、地方公共団体等と共催でコンサートとアクティビティ(アウトリーチをはじめとする地域交流プログラム)を実施する事業です。2023・2024年度のおんかつ導入プログラムの事業実施に向けて登録アーティストを募集します。事業の趣旨にご賛同いただける新進アーティストのご応募をお待ちしております。また、公立文化施設等の担当者の方々には、地域で活躍するアーティストをご紹介いただければ幸いです。

登録アーティスト 募集概要

◎募集ジャンル
•ピアノ
•弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、クラシックギター、ハープ)
•管楽器(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、サクソフォン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム)
•声楽(ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バス)
•打楽器(マリンバ含む)
•クロマティックハーモニカ
•クラシックアコーディオン

◎応募条件
[ソリスト]
年齢条件(声楽以外):2023年4月1日時点で満20歳以上36歳以下
年齢条件(声楽):2023年4月1日時点で満20歳以上41歳以下
[アンサンブル]
編成条件:五重奏まで
年齢条件:2023年4月1日時点で平均年齢36歳以下。ただし、満20歳以上38歳以下で構成されていること
※上記年齢条件は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今回の募集に限り1歳引き上げています。

◎募集数
6～8名(組)程度

◎審査日程
第1次選考:書類と音源(YouTube)による予備審査
第2次選考:ライブ演奏による本審査
[日程]2022年7月28日(木)・29日(金)
[会場]トッパンホール(東京都文京区水道1-3-3)
[審査員]現田茂夫、小川典子、山崎伸子、杉木峯夫、下八川共祐、小澤櫻作、花田和加子

◎合格者について
合格者は、基本的な登録条件などについて合意した後、2023・2024年度の当事業のアーティストとして登録いたします。合格者対象の研修を2022年10月6日、7日に予定しております(参加必須)。

◎応募締切
2022年5月10日(火)

◎募集要項
募集要項および応募用紙は当財団ホームページに掲載しています。詳細は担当までお問い合わせください。
https://www.jafra.or.jp/docs/8039.html

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　森永・山之内
Tel. 03-5573-4069
onkatsu@jafra.or.jp

財団からのお知らせ

●令和2・3年度「市町村立美術館活性化事業」報告

市町村立美術館活性化事業(以下、市美活)の巡回展「板橋区立美術館・豊島区所蔵『池袋モンパルナス―画家たちの交差点―』」が、しもだて美術館、瀬戸市美術館、酒田市美術館にて開催されました。

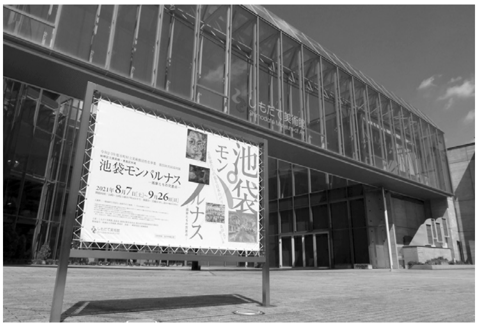
本展では、板橋区立美術館・豊島区にご協力をいただき、「池袋モンパルナス」に関連したコレクションから、1920〜40年代を象徴する作品を生み出した画家をはじめ、当時流行していたフォービスムやシュルレアリスム絵画を試みる画家のほか、官展で活躍する画家等、さまざまな画家たちが会派を超えて交流した様子を4つのテーマに分けて紹介しました。また、各館では、それぞれの美術館のコレクション等から池袋モンパルナスに関連した地域ゆかりの画家の作品(森田茂/しもだて美術館、北川民次/瀬戸市美術館、斎藤長三・今井繁三郎/酒田市美術館)を展示しました。図録でも、各開催館の担当学芸員が地域ゆかりの画家と池袋モンパルナスの関連について執筆し、収蔵作家について掘り下げる機会にも繋がりました。

各開催館では、展覧会に合わせてワークショップ等の地域交流プログラムも実施しましたので、一部をご紹介します。

瀬戸市美術館では、市内に保存されている画家・北川民次のアトリエ公開を行いました。北川は、昭和18年に夫人の出身地である瀬戸に疎開してから25年間この地で制作を続けた地域ゆかりの画家であり、戦前には豊島区長崎に居住し池袋モンパルナスの画家とも交流があったそうです。酒田市美術館では、地域で活躍する劇団ワンライブと高校生による詩の朗読会を開催しました。詩人でありながら池袋モンパルナスの画家と交流するなかで絵画も制作した小熊秀雄の詩や、酒田出身の画家・小野幸吉の詩、地域の高校生が出品作から着想した詩を朗読しました。しもだて美術館では新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながら実施できませんでしたが、学芸員と参加者が作品について語り合う双方向のギャラリートークの実施を予定していました。

市美活は2カ年をかけて準備から開催までを行う事業で、地域創造の提示した企画案について、貸出協力館アドバイザーの助言のもとに開催各館の学芸員が、学芸会議で議論を重ねながら具体化していきます。広報や図録の作成など、展覧会実施に係る業務についても、開催館同士で分担しながら進めていきますが、今回の巡回展では展覧会のオリジナルグッズにも力を入れ、出品作家の肖像のイラストをデザインしたマスキングテープや、手ぬぐい、トートバッグ等を制作し、好評を得ました。市美活では他館と連携しノウハウを共有することができるので、単館ではなかなか取り組みづらいことにもチャレンジしやすいと言えるかもしれません。

令和3・4年度の市美活では、「土門拳記念館コレクション展　土門拳―肉眼を超えたレンズ―」を、安曇野市豊科近代美術館、直方市美術館(直方谷尾美術館)、安来市加納美術館、八幡浜市美術館にて開催します。また、令和5・6年度市美活の参加館募集は、6月頃を予定しています。



上:美術館外観と展覧会看板(しもだて美術館)
中:展示室内の様子(瀬戸市美術館)
下:高校生×劇団ワンライブによる詩の朗読会(酒田市美術館)

●第21回共同巡回展
「板橋区立美術館・豊島区所蔵『池袋モンパルナス―画家たちの交差点―』」
[会場・会期]
•しもだて美術館(茨城県筑西市)
2021年8月7日〜9月26日
•瀬戸市美術館(愛知県瀬戸市)
10月2日〜11月14日
•酒田市美術館(山形県酒田市)
11月20日〜2022年1月10日
[主催]第21回共同巡回展実行委員会ほか
[特別協力]板橋区立美術館・豊島区
[助成](一財)地域創造
[アドバイザー]
弘中智子(板橋区立美術館学芸員)
小林未央子(豊島区文化商工部文化デザイン課学芸員)

●市町村立美術館活性化事業に関する問い合わせ
総務部　三田
Tel. 03-5573-4184

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　藤原・梅村

●2022年5月号情報締切
2022年3月17日(木)

●2022年5月号掲載対象情報
2022年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●岩手県宮古市
宮古市民文化会館
〒027-0023 宮古市磯鶏沖2-22
Tel. 0193-63-2511　島香英美
https://iwate-arts-miyako.jp/

三陸国際芸術祭|縦|×第13回みやこ郷土芸能祭

三陸国際芸術祭の一環として開催される、国指定重要無形民俗文化財である黒森神楽をはじめ、30もの郷土芸能が伝承されている宮古市の魅力を伝える芸能祭。宮古市から黒森神楽や末角神楽、花輪鹿子踊りが出演するほか、盛岡市から澤目獅子踊りをゲストに迎える。公演に合わせ、前日5日(土)には三陸を訪れた写真家によるトークセッションや、震災後に制作されたミュージカル『いのちてんでんこ』の上映会も行われる。
[日程]3月6日
[会場]宮古市民文化会館

●岩手県久慈市
久慈市文化会館
〒028-0051 久慈市川崎町17-1
Tel. 0194-52-2700　中川僚
https://ahall.city.kuji.iwate.jp/

G.プッチーニ作曲 オペラ『ラ・ボエーム』演奏会形式(抜粋)

市民参加型オペラとして公演予定だった『ラ・ボエーム』を、コロナ禍のため演奏会形式に再構成して上演する。これまで市民参加型オペラに協力してきた豪華な出演者と共に、オーケストラが舞台上で演奏。イタリアオペラの傑作楽曲と7名のソリストたちの演技と歌声がお手頃価格で楽しめる。

平成29年度公演『椿姫』より

[日程]3月6日
[会場]久慈市文化会館(アンバーホール)

●宮城県角田市
角田市市民センター
〒981-1505　角田市角田字牛舘10
Tel. 0224-63-2221　浅野広平
https://www.city.kakuda.lg.jp/soshiki/22/

加川広重巨大水彩展「祈り ～忘れない～」

宮城県を拠点に、東日本大震災被災地の風景を巨大な水彩画に描き記録し続ける加川広重。「忘れない」を共通テーマに掲げ、加川の代表作とも言える震災をテーマにした作品と、今年3月の閉校が決まっている角田市立西根小学校の児童49人が、加川の指導の下、母校への想いを大きな絵に表現したメモリアルアートを展示する。
[日程]3月6日～13日
[会場]角田市市民センター(かくだ田園ホール)

加川広重《雪に包まれる被災地》

●山形県大石田町
大石田町教育委員会
〒999-4112　北村山郡大石田町緑町28
Tel. 0237-35-2094　大橋武司
http://niji.town.oishida.yamagata.jp/index.html

山形県県民参加型総合芸術舞台「OU」～いつかどこかで見た景色～

大石田町の地域おこし協力隊であり大石田AIR代表のコンテンポラリーダンサー・大橋武司が監修する県民参加型の公演。町の文化や自然、生活から着想を得て作品を創作。18歳以上の県内在住者が対象の一般公募オーディションで選出された13名とゲストパフォーマー2名により、ダンス・音楽・演劇・映像・身体表現などを駆使した総合的なパフォーマンスをつくり上げる。
[日程]3月13日
[会場]大石田町町民交流センター虹のプラザ

関東

●群馬県高崎市
高崎市美術館
〒370-0849　高崎市八島町110-27
Tel. 027-324-6125　笠原晶子
https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011000353/

5つの部屋+I　多彩なコレクションで巡る高崎市美術館30年のあゆみ

高崎市美術館は開館以来、近・現代の地域ゆかりの作家を中心に、彼らと同時代の国内外作家の作品を収集・公開してきた。本展では、5つの展示室を異なる5つのテーマで巡り、多彩なコレクションを紹介。美術館に併設する旧井上房一郎邸の主であり、高崎・群馬の芸術・文化の振興に尽力した実業家・井上房一郎についても資料で紹介する。
[日程]1月15日～3月27日
[会場]高崎市美術館

●さいたま市
埼玉県立近代美術館
〒330-0061　さいたま市浦和区常盤9-30-1
Tel. 048-824-0111　鴫原・大浦・松江
https://pref.spec.ed.jp/momas/

開館40周年記念展　扉は開いているか―美術館とコレクション1982-2022

開館40年を迎える埼玉県立近代美術館そのものに焦点を当て

た展覧会。美術館の原点とも言える開館前後の活動、黒川紀章の設計による美術館建築、美術館の活動と分かち難く結びつきながら成長するコレクション、コミッションワークやプロジェクトなど、作品や資料を織り交ぜながらさまざまな視点で40年間の活動を紐解き、検証し、これからの美術館を展望する。
［日程］2月5日～5月15日
［会場］埼玉県立近代美術館

●埼玉県東松山市

東松山文化まちづくり公社
〒355-0024　東松山市六軒町5-2
Tel. 0493-24-2011　鈴木和幸
https://www.biwa-no-ie.com/

～平成家族物語～舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第3弾 音楽劇『枇杷の家』

2018年4月、彩の国さいたま芸術劇場の協力を得て3カ年に及ぶ「～平成家族物語～舞台芸術によるまちづくりプロジェクト」がスタート（1年目は戯曲募集と朗読劇、2年目は演劇、3年目は音楽劇）。今回はシリーズファイナルとして、初年度に全国から戯曲募集を行い、43作品の中より優秀作品に選ばれた『枇杷の家』を市民とプロが一緒につくり上げる音楽劇として上演する。
［日程］3月20日、21日
［会場］東松山市民文化センターホール

●東京都町田市

町田市文化・国際交流財団
〒195-0053　町田市能ヶ谷1-2-1
Tel. 042-737-0252　春名祐子
https://www.m-shimin-hall.jp/tsurukawa/

若き演奏家による「水曜午後の音楽会」第85回　佐々木つくしヴァイオリンリサイタル

実力のある若手演奏家に演奏の機会と発表の場を提供するとともに、質の高い演奏を気軽に聴いてもらう目的で2013年4月から開催しているコンサート。毎回編成が異なる点が大きな魅力となっている。今回は新進気鋭のヴァイオリニスト・佐々木つくしとピアニスト・五条玲緒がモーツァルト「ヴァイオリンソナタト長調KV.301」などをお送りする。
［日程］3月16日
［会場］和光大学ポプリホール鶴川

北陸・中部

●新潟県妙高市

妙高文化振興事業団
〒944-0046　妙高市上町9-2
Tel. 0255-72-9411　古川郁
http://myoko-bunka.jp/

けやきの森ジュニア&ユース合唱団スプリングコンサート2022

“地域型音楽クラブ”を目指した取り組みとして、2005年にスタートしたジュニア合唱団のコンサート。歌や合唱が大好きな子どもたちが、地域や学校、年齢の枠を超えて活動を続けている。今年は小学2年生から中学3年生までの団員13人が、オリジナル合唱曲やポップスなど幅広いレパートリーで1年間の成果を発表する。
［日程］3月20日
［会場］妙高市文化ホール

けやきの森ジュニア&ユース合唱団

●長野県長野市

長野県立美術館
〒380-0801　長野市箱清水1-4-4
Tel. 026-232-0052　木内真由美
https://nagano.art.museum/

生誕100年　松澤宥

下諏訪町を拠点として活動した日本を代表するコンセプチュアル・アーティスト松澤宥（1922～2006）の大回顧展。松澤の原点である建築や詩から、美術文化協会展や読売アンデパンダン展などに出品された絵画やオブジェ、言語による作品やパフォーマンスまで、同時代の資料や写真を交えて紹介。また、伝説のアトリエ「プサイの部屋」の一部を再現するとともに、VRで体験できる展示を行う。
［日程］2月2日～3月21日
［会場］長野県立美術館

松澤宥《のぞけプサイ亀を翼ある密軌を》（1962年／木・紙・ガラス・金属・写真・デッサン／個人蔵）

●岐阜県海津市

海津市OCT文化センター
〒503-0695　海津市海津町高須515
Tel. 0584-53-1536　水谷友子
https://www.city.kaizu.lg.jp/

海津市市民創作ミュージカル『ハリヨと生きる』―水面に煌めく命の唄―

海津市の指定文化財である天然記念物ハリヨを題材とした市民参加型オリジナルミュージカル。湧き水の中でしか生きることのできない希少生物のハリヨを守ることは、きれいで豊富な湧き水を地域の財産として守ることであり、生活環境を守ることにも繋がる。ハリヨを通して自然や生き物、そして故郷を守ることの意義を問いながら「水の文化」を後世に継承していくことを目的とする。
［日程］3月19日、20日
［会場］海津市OCT文化センター

地元小学校でのアウトリーチの様子

●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団
〒440-0887　豊橋市西小田原町123
Tel. 0532-39-3090　大橋・加賀
https://www.toyohashi-at.jp/

市民と創造する演劇『階層』―チェルフィッチュの〈映像演劇〉の手法による―

―・チェルフィッチュ主宰の岡田利規と、舞台映像作家の山田晋平による新しい形式の演劇の形である「映像演劇」の手法を活用した作品を、オーディションで選ばれた市民とつくり上げる。出演者のほかに、広報部、演出・映像部、鑑賞サポート部の3セクションの市民スタッフも公募し、演劇を体系的に学べる機会を提供する。公演に合わせ、岡田と山田によるトークイベントも開催。
［日程］3月3日～6日
［会場］穂の国とよはし芸術劇場PLAT

●愛知県知立市

ちりゅう芸術創造協会
〒472-0026　知立市上重原町間瀬口116
Tel. 0566-83-8100　堀川克磨
https://patio-chiryu.com/

知立の山車文楽新作プロジェクト『おささ玉城恋の八橋』

3年計画で、今後何十年、何百年と残るような新作文楽を制作する。本作品は、知立の文化遺産である琉球古楽器「長線」を

通して、知立の歴史に目を向けると同時に、沖縄との知られざる関係に歴史ロマンを交えつつ光を当てる作品。今回はプロジェクト2年目として中段(池鯉鮒の宿対面の段)を文楽で上演。このほか劇団前進座俳優による一人語りも上演される。
[日程]3月19日、20日
[会場]パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

近畿

●滋賀県大津市

びわ湖芸術文化財団
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7153 押谷征仁
https://www.biwako-hall.or.jp

舞台技術研修～人材育成講座～

舞台芸術を担う人材の育成を目指す研修プログラム。連携大学の学生と全国から募集した舞台技術研修受講者が、舞台技術や仕込みを学び、映像・衣裳・舞台装置などのデザインワークのプロセスを経て、「人魚姫」をテーマにしたミュージカルを制作・上演する。技術を学ぶ研修にとどまらず、公演に対する姿勢や技法の理解を短期間で効率よく身に付けられるプログラムとなっている。
[日程]3月14日～19日
[会場]滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●京都市

京都府立堂本印象美術館
〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3
Tel. 075-463-0007 山田由希代
https://insho-domoto.com/

生誕130年 描く・飾る・デザインする ―堂本印象の流儀―

堂本印象(1891～1975)の日本画家の枠にとらわれないマルチな創作活動に注目し、木彫人形や婚礼衣裳の下絵、晩年の集大成とも言える美術館のデザインに至るまで、個性豊かな美意識の世界を紹介。また、通常非公開となっている岐阜・瑞甲山乙津寺の襖絵が同館で26年ぶりに特別公開される。日本画家による抽象表現という印象の新たな創造が、寺院空間において遺憾なく発揮されたことを実感できる。
[日程]2021年12月3日～3月21日
[会場]京都府立堂本印象美術館

堂本印象《木彫人形 月影》(1914年／京都府立堂本印象美術館蔵)

●京都市

京都コンサートホール
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26
Tel. 075-711-2980 高野裕子
https://www.kyotoconcerthall.org/

Join us(ジョイ・ナス)! ～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～ 最終年度リサイタル

京都コンサートホールと京都市文化会館5館の連携により2019年度から実施している登録アーティスト制アウトリーチ事業「Join us(ジョイ・ナス)!～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～」。今年度が活動の最終年度となる第1期登録アーティストである石上真由子(ヴァイオリン)、田中咲絵(ピアノ)、DUO・GRANDE(弦楽デュオ:上敷領藍子、朴梨恵)が単独のリサイタルを開催する。
[日程]3月5日(石上真由子)、6日(田中咲絵)、21日(DUO・GRANDE)
[会場]京都コンサートホール

●堺市

フェニーチェ堺
〒590-0061 堺市堺区翁橋町2-1-1
Tel. 072-223-1000 谷口奈緒子
https://www.fenice-sacay.jp/

THEフェニーチェ文楽 人形浄瑠璃文楽『義経千本桜』

文楽・歌舞伎を代表する名作中の名作である『義経千本桜』を上演。人形浄瑠璃文楽の人形遣いであり、昨年人間国宝に選ばれた桐竹勘十郎が出演。開演後、冒頭で勘十郎が『義経千本桜』で演ずる狐忠信(きつねただのぶ)への思いを語る。また公演に先立って、セミナーも開催。物語のあらすじを理解し、全体像を知ってから観てもらうことで、初心者でも文楽を楽しめる内容となっている。
[日程]3月6日
[会場]フェニーチェ堺

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター
〒663-8204 西宮市高松町2-22
Tel. 0798-68-0223
https://www1.gcenter-hyogo.jp/

ワンコイン・コンサートNo.1アーティスト2020 アンコール・リサイタル 大谷雄一 チェロ・リサイタル

開館時より人気を博しているワンコイン・コンサート(関西に馴染み深い、今後の活躍が期待される若手演奏家が出演)の出演者の中から、その年最も高い支持を得たアーティストによるリサイタル企画。2020年の出演者から選出されたのは、洗練されたテクニックと情感豊かな音色で観客を魅了した大阪交響楽団首席チェロ奏者の大谷雄一。「チェロで聴く」をテーマに、幅広く多彩なプログラムを届ける。
[日程]3月4日
[会場]兵庫県立芸術文化センター

中国・四国

●広島県廿日市市

廿日市市芸術文化振興事業団
〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1
Tel. 0829-20-0111 佐藤美穂
https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapia/

はつかいちジュニア弦楽合奏団 “NO・ZO・MI”スプリング・フレッシュ・コンサート2022

2019年から「音楽を通して、みんなでひとつのものを“楽しく”作り上げていく」ことを目的に、はつかいち文化ホールを拠点に活動を行うジュニア弦楽合奏団。同じく文化ホールを活動拠点とする、地域のプロ・アンサンブル「はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”」のサポートの下、1年間の締めくくりのコンサートとして、日頃の練習の成果を披露する。
[日程]3月6日
[会場]はつかいち文化ホールウッドワンさくらぴあ

“NO・ZO・MI”デビューコンサート(2021年3月／はつかいち文化ホール 小ホール)

●香川県高松市

サンポートホール高松
〒760-0019 高松市サンポート2-1
Tel. 087-825-5010 堀有紀子
https://www.sunport-hall.jp/

大倉朗人の消しゴム版画展「SEASONS・時の色」

高松市在住で第26回日本はがき芸術作家展大賞や、作品集『消しゴム版画の贈りもの』などで注目される消しゴム版画家大倉朗人の作品展。作者が一貫

して描いてきた四季をテーマに、移りゆく季節のシーンをカラフルな作品群でお届けする。会期中は小学生と保護者を対象とした消しゴム版画ワークショップも開催。
[日程]3月22日〜28日
[会場]サンポートホール高松

●高知県香美市
香美市立美術館
〒782-0041 香美市土佐山田町262-1
Tel. 0887-53-5110 小松雅子
https://www.city.kami.lg.jp/site/bijutukan/

第95回企画展 怖い絵展─第3弾─
2017年に収蔵作品展として開催した「怖い絵」展、来館者の好評を受け翌年開催した「もっと怖い絵」展に続き、「怖い絵」展の第3弾を開催。今回は、山本幸一氏が所蔵する作品を借用して、収蔵作品と併せて展示する。芝居絵屏風から現代画家の作品まで、さまざまなタイプの“怖い絵”を展示し、比較しながら楽しめる展覧会となっている。
[日程]2月5日〜3月21日
[会場]香美市立美術館

九州・沖縄

●福岡県大野城市
大野城心のふるさと館
〒816-0934 大野城市曙町3-8-3
Tel. 092-558-5000 高尾愛
http://www.onojo-occm.jp/

開館3周年記念特別展 アーブル美術館展─親子でつくるアートな世界─
アーブル美術館は、ルーブル美術館に憧れる藤原晶子と彼女の子ども2人(天馬、心海)から成る親子アートユニット。子どもたちがフェルメールやゴッホなど古今東西の名画をモチーフに制作を行っており、総制作数700点の中から選りすぐりの作品約60点を展示。子どもたちの作品は“ヘタウマ”ながらオリジナルの絵の本質をとらえ、見る人を引き付ける面白さがある。美術鑑賞がより身近になるに違いない。
[日程]1月15日〜3月6日
[会場]大野城心のふるさと館

©MUSEE DU AOUVRE

●長崎県佐世保市
アルカスSASEBO
〒857-0863 佐世保市三浦町2-3
Tel. 0956-42-1111 山元麻美
https://www.arkas.or.jp/

大正時代に思いをはせて〜文化財で聴く、大正の名曲コンサート〜
1923(大正12)年に開館し、97年に有形文化財に登録、2016年に日本遺産に認定された佐世保市民文化ホールで、大正時代に生まれた音楽・親しまれた音楽を、長崎県在住のさまざまなジャンルの音楽家たちが演奏するコンサート。長崎県出身のピアニスト・安部まりあ、創立50周年を迎える箏曲グループ「菊の会」、フルート・クラリネット・ピアノによる木管トリオ「ラリルーノ」が出演。
[日程]3月6日
[会場]佐世保市民文化ホール(凱旋記念ホール)

●熊本市
熊本市文化スポーツ財団
〒860-0805 熊本市中央区桜町1-3
Tel. 096-355-5235 吉田愛
http://stage1kmj.jp/

響け!若い音楽の力 合唱と管弦楽のための交響詩集『時の川』
東京藝術大学学長の澤和樹を指揮に招き、ふるさと熊本をテーマに若い音楽家たちがお届けするコンサート。阿蘇山の湧水を水源とし、熊本市を南北に貫く白川をテーマに作曲された『時の川』(熊本市委嘱作品・岩代太郎作曲)をはじめ、『ヴルタヴァ(モルダウ)』、児童合唱のための組曲『火のくにのうた』を披露する。また、岩代太郎と澤和樹、音楽監督の山崎崇伸によるトークイベントも同時開催。
[日程]3月20日
[会場]市民会館シアーズホーム夢ホール

●熊本県益城町
益城文化会館
〒861-2242 上益城郡益城町木山381-1
Tel. 096-286-1511 山口亮二
http://mashiki-culturehall.net/

館長プレゼンツ 益城deクラシック2022
音楽家を中心とした支援により平成28年熊本地震の被災から再生した2台のピアノによるモーツァルトの協奏曲を大塚正子・服部由香里が演奏する。オーケストラは熊本県内でオペラ作品を中心に演奏するラスカーラ・オペラ管弦楽団で、ほかにモーツァルトの交響曲2曲も演奏。指揮を熊本ユースシンフォニーオーケストラの指導者で2015年より館長に就任した山口亮二が務める。
[日程]3月13日
[会場]益城町文化会館

●大分県大分市
J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分市金池南1-5-1
Tel. 097-576-8877 闘理紗子
https://shiminhall.horutohall-oita.jp/

豊後FUNAIミュージカル『ぼくたちは星空のした。〜義鎮と塩市丸〜』
開館より9年間、市民参加型のミュージカルとして周知・展開してきた豊後FUNAIミュージカル。ミュージカルを通して、来場者へ大分の魅力を発信し、出演者に大分の歴史・文化・魅力の再確認と、地元への誇り醸成を目指している。大分市の歴史・文化を取り入れた内容で、大分県内から集まった63人が出演。音楽、振付、衣裳などの制作に携わるスタッフの育成も試みる。
[日程]3月13日
[会場]J:COM ホルトホール大分

2017年度公演『ぼくたちは星空のした。〜義鎮と塩市丸〜』

●宮崎県
メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 林田古都里
https://miyazaki-ac.jp/

「新 かぼちゃといもがら物語」#6『火球』
宮崎を舞台に、宮崎の“今”を生きる人々を描く、宮崎県立芸術劇場の自主制作による演劇シリーズ「新 かぼちゃといもがら物語」の第6弾。近年数々の戯曲賞を受賞し高い評価と注目を集める桑原裕子(KAKUTA)を脚本に迎え、宮崎県立芸術劇場演劇ディレクターの立山ひろみの演出で、地域から見た日本の今を見つめる作品をつくり上げる。
[日程]3月2日〜6日
[会場]メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

アーツセンター情報

●データの見方
情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp

●長野県長野市
長野県立美術館
〒380-0801　長野市箱清水1-4-4
Tel. 026-232-0052
https://nagano.art.museum/
◎2021年4月10日リニューアルオープン

長野県信濃美術館の本館が全面的な建て替えを経て、名称を変更して再オープン。「ランドスケープ・ミュージアム」をコンセプトに、丘陵地を利用して地上3階・地下1階の建造物を風景に溶け込ませつつ、屋上広場「風テラス」から善光寺本堂の大屋根と背後の山々が一望でき、美術館建築と伝統的風景の相互の魅力を引き出している。
リニューアルに当たって美術館のミッションを見直し、「鑑賞」「学び」「交流」「研究」を4本柱とした。公開される機会の少なかったコレクションを常設展示するスペースを設けて「鑑賞」を、学校連携を強化して「学び」を充実させるとともに、美術館を通して作家たちと人々が気軽に出会える場となるよう「交流」にも注力する。
［オープニング事業］東京藝術大学スーパークローン文化財展
［施設概要］企画展示室3室、コレクション展示室、交流スペース、アートラボ、アートライブラリー、しなのギャラリー、屋上テラス［風テラス］、水辺テラス、東山魁夷館
［設置者］長野県
［管理・運営者］（一財）長野県文化振興事業団
［設計者］（株）プランツアアソシエイツ

●浜松市
浜松市市民音楽ホール（サーラ音楽ホール）
〒431-2103　浜松市北区新都田3-2-1
Tel. 053-428-5700
https://www.hcf.or.jp/facilities/music-hall/theatre/
◎2021年6月1日オープン

市教育文化会館の閉館による市民の芸術活動の場の不足を解消するとともに、新たな市民の音楽活動や学習成果等の発表の場の創出を目的として開館。
ネーミングライツによる通称「サーラ音楽ホール」は、市内では2番目の客席数を有し、吹奏楽・オーケストラ・合唱などさまざまな音楽活動をはじめ、演劇公演や講演会などが開催可能。楽器、合唱練習などの活動に適した多目的室1・2や、スクリーン、プロジェクターが完備されている多目的室3は研修や社内会議等にも活用されている。コロナ禍に開館した施設ならではの特徴として、各室にオンライン配信に対応した専用回線も備える。
「音楽の都・浜松」の多彩な市民活動の促進と、次世代の音楽文化を担う人材育成を目指し、市民の音楽活動を支えていく。
［オープニング事業］開館記念事業「合唱の日」・「吹奏楽の日」
［施設概要］ホール（1,406席）、多目的室1・2（各198m^2）、多目的室3（150m^2）
［設置者］浜松市
［管理・運営者］（公財）浜松市文化振興財団
［設計者］山下・中川設計共同企業体

●兵庫県西脇市
西脇市市民交流施設オリナス
〒677-0043　西脇市下戸田128-1
Tel. 0795-24-3010
https://www.nishiwaki-koryu.jp/
◎2021年5月6日オープン

新市庁舎、市民交流施設、健康福祉連携施設で構成された複合施設として市中心部に開館。「健康づくり」「文化芸術を通じた生きがいづくり」「地域の魅力発信」の3つの機能で、新たな賑わいや活力を創出する。
館内には約600席の移動式観覧席を有する多機能ホール「オリナスホール」のほか、音楽やダンスなどができる防音室「つながるスタジオ」、さまざまな催しに活用できる「あつまるスタジオ」、子育て世代に配慮し床暖房を完備した「はぐくむスタジオ」など、多種多様なスタジオを設置。各スタジオ内は、活動が共用部から見える構造になっているなど、つながりを感じられる仕掛けが随所に散りばめられている。
今後は、鑑賞事業や参加型事業、育成事業などを行いながら、人と人、地域と地域など「まんなかから、つながるまち」の実現を目指す。
［オープニング事業］きかんしゃトーマスファミリーミュージカル～ソドー島のたからもの
［施設概要］オリナスホール（602席）、あつまるスタジオ（85.3m^2）、つながるスタジオA・B（各49.2m^2）、はぐくむスタジオA・Bほか
［設置者］西脇市
［管理・運営者］（株）ケイミックスパブリックビジネス
［設計者］（株）昭和設計

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

滋賀県大津市
滋賀県立美術館
「人間の才能 生みだすことと生きること」

上：改修では、公園から美術館内への連続性を意識し、エントランス・ロビーとその周辺をカフェやショップと一体化させて飲食できる「ウェルカムゾーン」と位置づけるなど広場のような機能をもたせた
中：中原浩大《Educational》
下：鵜飼結一朗《妖怪》（部分）
©Yuichiro Ukai / Atelier Yamanami
Courtesy Yukiko Koide Presents

●人間の才能 生みだすことと生きること
［会期］2022年1月22日～3月27日
［会場］滋賀県立美術館 展示室3
［主催］滋賀県立美術館
［企画］保坂健二朗（滋賀県立美術館ディレクター（館長））
［出展作家］井村ももか、鵜飼結一朗、岡崎莉望、小笹逸男、上土橋勇樹、喜舎場盛也、古久保憲満、小松和子、澤井玲衣子、澤田真一、アルトゥル・ジミェフスキ、冨山健二、中原浩大、福村惣太夫、藤岡祐機、山崎孝、吉川敏明

2021年6月、滋賀県立美術館がリニューアルオープンした。前身の滋賀県立近代美術館は、1984年に開館し、大津市出身の小倉遊亀など「日本美術院を中心とした近代日本画」「郷土にゆかりある美術」「戦後のアメリカと日本を中心とした現代美術」を柱に約1,800件を収集してきた。

そもそも老朽化した美術館を大幅に増改築し、美術館、仏教美術等を収蔵・公開してきた琵琶湖文化館、地域で育まれてきた「アール・ブリュット（障がいのある人や美術の専門教育を受けていない人たちの表現）」の3つを「美の滋賀」として繋ぐ「新生美術館」が構想されたが、建築費の高騰などにより頓挫。最終的に既存施設の改修のみにとどめ、2016年から収集を始めていたアール・ブリュットを柱に加え、館名から「近代」を外してオープンした。

●

2022年2月8日、開館記念展の第3弾として新たな柱となったアール・ブリュットを取り上げた企画展「人間の才能　生みだすことと生きること」を開催中の美術館を訪れ、リニューアルについて取材した。同展は、アール・ブリュットと呼ばれる表現を中心に17作家を紹介。キュレーションを担ったのは、元・東京国立近代美術館主任研究員で新生美術館構想の時から検討委員として参画してきた保坂健二朗新館長（ディレクター）だ。

再開館に際して、同館は小規模美術館だからこそ実現できる「創造（Creation）と問いかけ（Ask）」「地域（Local）と学び（Learning）」をミッションとして掲げているが、今回の展覧会にもその姿勢が表れていた。保坂館長は、「アール・ブリュットは定義しにくい概念で、美術館で扱うことについてもさまざまな議論があります。なので、素直に冒頭で『アール・ブリュットは難しい概念だ』と提示しました。そして、そうした表現を相対的にとらえる展示構成にし、そもそも人間にとって“つくる”とは何かという問いを一緒に考える場にしたいと考えた」と話す。

会場では、まず、海外にも紹介されている作品・作家を中心に、同館のコレクションである澤田真一のトゲトゲに覆われた陶芸をはじめ、紙を糸のように細く切る藤岡祐機の造形物、鵜飼結一朗の長大な絵巻物風の絵画など多様な表現を展示。こうしたアール・ブリュットの繊細かつパワフルで大胆な造形の魅力を見せつつ、同時に従来の定義には収まらない作品や活動についても展示。1964年に始まった、日本画家が技法を教える「みずのき絵画教室」から生まれた作品、他者のサポートを受けて制作する小松和子や澤井玲衣子、目の見えない6人が絵を描く様子をとらえたポーランドの映像作家アルトゥル・ジミェフスキによる短編映画…。

そして最後の展示室に所狭しと展示されたのが、美術家・中原浩大がアウトプットした幼少期から小学6年生までの膨大な量の造形物（夏休みの自由研究、書道、工作、絵、作文などなど）だった。それらは、誰もが備えていた創造への衝動――その営みを名付けることに果たして意味はあるのかと、問いかけてくるようだった。

とはいえ、同館では収集方針の一つにアール・ブリュットを掲げ、海外展などで評価を受けた日本の代表的な作品の収集を開始している。これらでさえ、今、収集しなければ失われる可能性が高いため、まずは最初の一歩を踏み出すことを必要としている。また、滋賀県では戦後すぐから知的障がい者施設で粘土による造形活動が行われるなど、アール・ブリュットという言葉が広まる前からユニークな作品が制作されてきた蓄積がある。そうした施設での取り組みも地道に調査・紹介していく予定だ。さらに琵琶湖を擁する地域の幅広い文化のリサーチにも意欲を示している。

「現在のアーティストたちは人類学や考古学など多様な領域でリサーチし、作品を創造しています。美術館が美術史的な評価に閉じこもっていていいのか。アール・ブリュットを含め、生活の中で何が生まれているのかまで美術館が踏み込んでいく必要があるのではと考えています」と保坂館長。地域の美術館の新たなモデルとしての展開を期待したい。

（アートジャーナリスト・山下里加）